

令和 6 年度

日進川添配水系漏水調査業務委託

仕 様 書

大台町建設上下水道課

## 第一章 総則

### (1) 目的

本仕様書において定める事項は、日進川添配水系における漏水等の不明水量を発見し、有収率の向上とライフラインとしての水道機能を確保することを目的とする。

### (2) 趣旨

受託者は、本業務にあたっては、本仕様書及び三重県業務委託共通仕様を準用し、誠意を持って施工しなければならない。

### (3) 業務の遂行

受託者は、業務の遂行に当たっては、委託者と協議し、監督または指示する職員（以下「監督員」という）の指示を遵守するものとし、真摯に業務を遂行し、万一の疑義が生じた場合には直ちに監督員と綿密な連絡を取り、その指示又は承認を受けなければならない。

### (4) 提出書類

受託者は、次の書類を委託者に提出し承認を受けなければならない。

- |         |     |
|---------|-----|
| ①着手届    | 1 部 |
| ②工程表    | 1 部 |
| ③現場代理人届 | 1 部 |

### (5) 資料提示

委託者は、受託者に対し、業務に必要な、漏水修理データ、その他の関係資料を提示するものとする。

受託者は、資料の取り扱いについては丁寧に扱い作業完了後委託者へ返却するものとし、業務途中資料の必要を認めたときは、監督員に申し出て指示を受けるものとする。

### (6) 秘密の保持

受託者は、業務における内容を他に漏らしてはならない。

### **（７）腕章及び身分証明書の着用**

現地調査における調査員は、常に水道調査員の腕章を着用するとともに、身分証明書を携帯し、住民からの要請があった場合には速やかに提示し確認を得ること。

### **（８）業務遂行中の事故災害**

受託者は、本業務に伴う安全対策及び事故を未然に防止するための方策を監督員に説明し承認を得るものとする。

但し、本業務に伴う事故については、一切の責任と費用を負わなければならない。

### **（９）現場代理人及び主任技術者の業務資格**

受託者は、本業務にあたる主任技術者に、社団法人日本水道協会認定の水道管路施設管理技士を有した専門技術者を従事させなければならない。

## **第二章 漏水調査業務の実施**

本調査は、日進川添配水系の漏水調査に適用する。また、現場閉所による週休２日制を適用する。

### **（１）安全施設**

調査中は安全に留意し歩行者・自動車等の走行に対する危険を防止するため、黄色灯の点灯、反射チョッキの着用など常備するなどの対策を講ずるものとする。

### **（２）工程表の提出**

受託者は、契約の日から７日以内に指定の工程表を提出しなければならない。

### **（３）作業計画**

調査にあたっては作業計画を作成し、監督員と協議の上、これに基づいて実施しなければならない。

#### **（４）漏水調査報告書**

漏水位置が探知・発見された場合、路上に白スプレーによりマークし、かつ書面により報告しなければならない。

また、受託者が委託者に報告後、委託者が漏水位置の修繕を完了し、尚かつ漏水の存在が認められた時は、受託者は速やかに再調査し、漏水の復元が発生していないことを確認すること。

再調査の結果、漏水が認められた時は、直ちに漏水箇所を確認し、委託者に報告しなければならない。

#### **（５）調査期限**

受託者は、契約後工期内に調査を完了しなければならない。また、受託者の責によらない事情により工期又は、工程を変更しなければならないときは、委託者に対し事前に届出を行い、承認を得ること。

#### **（６）資機材・消耗品**

調査に必要な資機材並びに消耗品は、受託者の負担とする。

#### **（７）探知箇所のボーリング**

探知箇所の簡易ボーリングによる確認は、地下埋設物（ガス管・ＮＴＴケーブル・電力ケーブル等）の位置を十分考慮のうえ行うこと。

なお、不明の場合等については事前に監督員と協議し、必要に応じては関係者立会いの上で行うこととする。

### **第三章 業務完了報告**

受託者は、すべての業務が完了したとき委託者に対して、直ちに資料をまとめ業務完了報告書を提出しなければならない。

なお、詳細内容については、特記仕様書のとおりとする。

# 特 記 仕 様 書

## 1. 計画調査

(ア) 作業計画 工程を決定し、より効果的な調査工法の検討及び立案を行う。

(イ) 現場下見調査 配水管の埋設位置を確認し、配管図と現地とを照合する。また、給水密度、交通量、地形、他の埋設物状況等を確認し把握する。

## 2. 漏水調査

(ア) 挿入式流量調査 漏水調査実施前に夜間最小流量を把握し、漏水調査を実施する。設置方法はボール式補修弁付き消火栓を取り外し、不断水にて流量計を設置し、管路の流向、流量動向を測定し記録するものとする。なお、測定は72時間を10秒間隔でデータログに記録すること。

(イ) 戸別音聴調査 主としてメータ・止水栓及び給水管上で発生している漏水の発見作業で、昼間作業とする。  
漏水箇所を発見した場合、確認調査を行い報告する。

(ウ) 弁栓音聴調査 主として仕切弁・消火栓等の配水管付属施設を対象とし、音聴棒等を用いて調査する。  
漏水箇所を発見した場合、確認調査を行い報告する。

(エ) 路面音聴調査 給水管及び配水管から路面を伝達してきた漏水音を探知するため、騒音や使用水、交通量に影響されない時間に行う。(給水管及び配水管に発生している漏水を地上より漏水探知器によって発見する事を目的とする。)  
漏水箇所を発見した場合、確認調査を行い報告する。

(オ) 確認調査 漏水箇所のボーリングにおける漏水調査を行う。(管路音聴調査によって、発見された異常音発生地点を再度ボーリングにより調査して、漏水音が他の異常音かを判断する。また、漏水地点の割り出しを目的とする。) 漏水箇所を発見した場合、マーキングをして報告する。

## 3. 成果品

漏水位置を報告・分析し、将来的に有効な提案を行うこと。

①漏水調査報告書・・・1部

②漏水位置図・・・・・・1部

③現場写真・・・・・・1部